

伸べる **理** シリーズ307
企業には **由** がある

〔 ジャムシステム 〕

近年、重要性が高まる英語教育。教育現場では帰国子女が増え、教師は英語の発音などで抵抗があるという。そんな中、文科省の「学校 ICT 環境整備事業」により全小中高校に電子黒板が導入されることとなった。

「発音を電子黒板に任せれば、先生の負担が軽減され、生徒にも生きた英語を聞かせられる」

こう話すのは、ジャムシステムの佐伯義文社長。同社は創業以来、独自のソフト開発で豊富な実績を誇る。

すべて企画段階から自社で開発した同社の学習ソフトは、イラスト（視覚）重視。名詞だけでなく動詞や形容詞までイラスト化した。have、get、take など似た意味の単語もイラストなら例文との併用で理解しやすい。

同社が開発した「e-タッチ」はパソコン連動の電子黒板で使えるソフト。31 種のカテゴリー別の集合絵の一部をタッチすれば、選んだ単語のイラストが拡大する。各英単語を使った Q&A 文や、基礎レベルから上級レベルまでのネイティブの音声を繰り返しリスニングできる。

この実績により、同社は昨年 10 月に日立ソフトと提携し、内田洋行へ

もソフト提供が決定した。また「e-タッチ」の iPad への移植を目指し、すでにプログラムテストを終了。発売後に無償配布を開始し、世界中で 100 万ダウンロードを目指している。

小中高校の教育を変える
数々の英語教育ソフトを開発

他にも多数の独自の英語学習ソフトがある。「ぷりんた`n`プレイ」は、大小の英単語絵カードを 1000 種もプリンターで作成できる学習ソフトだ。「JAM250 ストーリータイム」は短い英文に意図的に多くの学習語彙を使用した創作童話集で、iPad や iPhone などの携帯向け母子読み聞かせソフトとなることも視野に入れている。数分で英語力が測定できる「英語リトマテスト」は、誤りや正答の傾向でまぐれ・不運解答を補正できるソフト。現在 iPhone に搭載すべく開発が続けられている。

英語で苦労した日本人の経験をフィードバックし英語ソフトを開発してきた同社。佐伯社長は、「現在、国内外でパートナー企業を求めている。世界に誇る英語教育ソフト会社として、自信喪失気味の知的立国日本を支援したい」と意気込む。



佐伯 義文 社長

住所＝東京都千代田区
一番町6-26 丸屋ビル4F
☎03-5214-5646
ホームページ＝
<http://www.jamsystem.com>